

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

第225号

令和6年(2024)12月発行

発行・事務局

○荏原第一地域センター○
小山3-14-1 (〒142-0062)
TEL 3786-2000

花めぐり

ツワブキ

落ち葉が舞う頃、つややかな大きな葉を持つツワブキが黄色い菊状の花を咲かせます。ツワブキの名は「つやのある葉を持つ蔦・艶葉蔦（つやはぶき）」「厚い葉の蔦・厚葉蔦（あつはぶき）」から転じてという説があり、漢字の「石蔦（つわぶき）」は海岸の岩場などに自生することからこの字が当てられたと言われています。

昔から葉や根茎は生薬として使われました。また、あく抜きをして食べることも出来るようですが（農林水産省・「うちの郷土料理・宮崎県」）ツワブキには毒性もあり十分な注意が必要です。

山陰の小京都といわれる島根県津和野町。津和野の語源が「つわぶきの生い茂る野」であると言われていて町の花になっています。

花言葉は「謙遜、謙譲」「困難に負けない」など。
(小山一丁目・河原 マサ江)



11月のある日
林試の森公園で撮影

『10月5日放送の
しながわEYEにて
紹介されました』



発展していく
ことを折って
います。
(荏原第一地域
センター)

まちかど第224号でも一部掲載していたためご存じの方もいるかと思いますが、9月8日に小山台神輿完成百周年渡御が執り行われました。この神輿は関東大震災の年に完成していましたが、地域の方が復興に尽力した関係もあり翌年の大正13年に引渡されました。先人達から代々継承されている大切な神輿です。

神輿は小山台一丁目町会長の河野実行委員長、小山台一丁目東町会長の石津副実行委員長が中心となりかむろ坂から出発しました。町内を練り歩きながら、後地神輿との合流、パルム商店街内の渡御へと進んでいきました。本渡御には小山三丁目町会、パルム神輿会等たくさんの方々が参加し、熱気に包まれ大いに盛り上がりました。あらためて当地区の人々の絆の強さを感じると共に、今後未曾有の震災が発生してもこの絆できつと乗り越えていけると確信した瞬間でした。このような節目の年に職員として地区行事に携われ大変光栄です。次の百年も地区の伝統が引継がれ当地区が益々

小山台神輿完成百周年渡御



5年ぶりの
荏原第一地区総合防災訓練



品川区防災協議会・荏原第一地区協議会主催の総合防災訓練が10月20日に、林試の森公園にて開催されました。

令和2年度から令和4年度はコロナによる中止、令和5年度は雨天による中止となり、令和元年度以降5年ぶりに実施する事ができました。

当日は、午前9時に開会式が行われ、堀越副区長をはじめ、消防署等の関係機関も出席しました。

そして、小山台一丁目東町会の石津会長の司会のもと、荏原第一地区防災協議会の河野会長の訓練開始宣言が行われ、訓練がスタートしました。

3班に分かれてローテーション訓練を行いました。応急救護訓練では三角巾を使用した圧迫止血包帯訓練、初期消火訓練では訓練用消火器で標的を使用した消火体験、体験訓練では煙ハウス体験と地震体験車を行いました。煙ハウスの中に入った方々は前が全く見えないと感想を話し、地震体験車では想像以上の揺れを感じている様子でした。

その他にも、防災ラジオの販売や防災関連用品展示の防災コーナー、消防車・救急車との記念撮影、親子防災体験コーナー等、内容が盛り沢山でした。

そして最後は、区民消防隊・ミニポンプ隊の方々、荏原消防団による一斉放水

町会活動紹介

年の瀬の風物詩 (小山二丁目東部町会)



わが町会の、年の瀬の風物詩といえば、餅つきと夜警です。餅つきは年末の日曜日に行い、40年程の歴史があります。後地公園で前日から道具を洗ったり、米をといだりと、準備を進めて、当日は朝早くから餅米を蒸し、五種類程の薬味の仕込み、会場の準備と、午前10時の開催を目指します。

開催時には、一臼目をつき始め、周りからの威勢の良い掛け声で賑やかに始まります。つきあがり前には、配布場所に長蛇の列ができ、数個の餅を乗せた皿を受取ると、それぞれ好みの薬味をもらい、美味しそうに食べていました。

つき手は、お父さん、子ども、シルバーの方まで、希望者についてもらいます。25kgの餅米も150分程でつきあがり、皆さん満足そうに帰って行きました。

暮れの夜警は10日間。その内の1日は、早い時間に子ども夜警を行います。昨年は、40人以上の親子が参加。子ども達に懐中電灯・拍子木を渡すと「カチカチ」「火の用心」と、リズム良く全員で声を出して、楽しそうに30分程町内を回ります。終了後には、火の用心の意味を教えて、ホットココアを飲み、お菓子つめ合せをお土産に、無事に帰って行きました。
(小山二丁目東部・会長 新井 清久)

新生児育成入魂の儀



です。荏原消防署の方の号令のもと、本番さながらの放水が行われました。災害に備え、日ごろから訓練をしている区民消防隊、ミニポンプ隊の一斉放水は圧巻で、場内からは大きな拍手が送られました。

総勢879名の方にご参加いただき無事に終了しました。不測の事態に備え、今後も地域一丸となって訓練を継続して取り組んでいくたらしと思っています。
(荏原第一地域センター)



一斉放水ポンプ隊

当町会では平成27年、今から9年前より、祭礼の際、掲題の儀式を行っています。毎年のお祭りまでに誕生した新生児の健やかな成長と幸せな人生を祈念する催しです。三谷八幡神社の御魂が入った大神輿を鳳和会の担ぎ手がワッショイの掛け声と共に上下に揉んでいる下を新生児を抱いた親御さん（パパママのいづれか）がくぐるというものです。

私はこの光景を毎回立ち会っていますが、不思議に、ほとんどの赤ちゃんが泣いたりせず、ニコニコと笑顔で周りを見渡している姿を目の当たりにしてきました。きっと無意識の中にも、このことを喜んでくれているものと思っています。なお、神輿を揉むのは神様の霊力を高めるためだそうです。その後、宮司さんが考案し、贈呈してくれたお守りのお札をプレゼントします。参加対象は、町会員を始め、その親戚、知人、他町会の方もOKです。毎年10月15日の家族の参加がありますが、皆さん大変喜んでおります。中には最近引越してきた若夫婦が近所の町会役員に誘われて参加し、「ここへ来て生まれた子が皆さんに祝福され祈願してもらおうことは、本当にうれし！」と感激しておりました。

これから、この儀式を通し、多くの方々がお祭りや町会に親近感を持ってもらえるよう続けていきたいと思っています。

(荏原四丁目・会長 佐藤 眞一)